

- * 本年の教会の年間目標は「喜びに満ちた信仰生活」。「喜び」について学び、実践していきたい。「楽しみ」ということばも聖書にあり、「世の楽しみよ去れ」と歌われているようにイエス・キリストの富に比べればこの世の富や誉れはちりやあくたの様に価値の小さいものであるという。しかし、「この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。」（1テモ6:17）神は私たちにすべての必要な物を与えてくださるかたであり、それを用いて楽しむことは良い事なのである。キリスト教は決して禁欲の宗教ではない。
- * 「喜びの手紙」と呼ばれる「ピリピ人への手紙」は、使徒パウロがローマの獄中で書いたと思われる。当時のローマ植民地であったマケドニア地方の大都市ピリピ。パウロは第2回伝道旅行の際にここを訪れて伝道開拓して教会ができた。ヨーロッパ最初の教会とあってよい。この手紙にはキリストが満ち満ちていて、ピリピの信徒を励ましている。信徒に「喜び」「再臨と永遠のいのちの希望」「キリストによる一致」「交わり」「福音伝道のすすめ」を説いている。
- * 「いつも主にあって喜びなさい。」（ピリピ4：4）手紙全編を貫く「喜び」。嬉しい時、うまくいっている時に喜ぶのは当たり前。聖書の「いつも喜ぶ」は一時的な感情ではなく、私たちが常に持つべき、決して崩れることのない心の基盤ではないかと思う。その秘訣は「主にあって」である。
- * 「主にあって」「キリストにあって」はパウロがよく用いることばである。原語では en(英語では in)。この意味は、「、、の中に入り込んで」とか「、、と一体になって」という状態を示す。すなわち、私が「イエス・キリストの中に一体となって」いることである。その状態ならばどんな状況でも「喜ぶ」ことが可能になるのである。キリストは私のすべてをご存知であり、この方にゆだねているかぎり決して悪いようにはなさない。主は私に常にベストをなさる方である。
- 「主にあって喜びなさい」とは「イエス・キリストを信じて委ねる信仰によって喜びなさい。」ということである。